

聖霊降臨－神の子の自由－

聖書によれば「神の霊によって導かれる人は、誰でも神の子なのです」(ローマ 8.14)。また「御父がどれほど私たちを愛しておられるかを考えなさい。私たちは神の子なのです」(1 ヨハネ 3.1)。洗礼によってイエス・キリストと結ばれた私たちは、新たに神の子として生まれ変わり、新しい人として新たに創造されたと言えます。見たところは何の変化もなく、自分自身の変化に気付くこともありません。しかし、その存在の意味が大きく変わりました。「お前は私の子である。今日、私はお前を生んだ」(詩編 2)が実現したのです。

現代人は「自由になろう」と神を否定して以来、父の家を失って荒れ野を彷徨う孤児のようになってしまいました。自分が誰か分からないのです。その孤独を埋め合わせるために、様々な権利を要求して、自分の夢を追い求め、それが自由な生き方だと勘違いしています。この個人主義的な生き方は、いつも自分が主人公で、自分の自由しか考えません。しかし自由とは獲得した権利のことではありません。自由とは何より大切な贈り物であり、他者を愛するための内的な能力のことです。自由により、喜んで誰かに奉仕することが可能になり、進んで従うことが出来るようになり、何より神に従うことが出来るのです。

私たちは外の世界に気を取られ、そこで他者に邪魔されず自由に行きたいと思います。しかし現実世界で他者を思い通りにすることは出来ず、自分は不自由だと感じ、ストレスを抱え込むことになります。もっと自分の内側に関心向けましょう。私たちは根源において「義」とされ、聖なる人になりました。仏教で言う「成仏」です。自らの行いによって罪人になりますが、根源において聖人なのです。私のど真ん中に神が宿っています。聖霊、真理の霊です。この真理が私たちを罪から解放して、欲から解放して、死から解放して自由にしてくれます。真理と自由は切り離せません。現代人は、神を手放し、真理を見失い、自分にとって都合のいいことを人生の真実と取り違えました。つまり、楽しいこと、快適なこと、欲を実現させること、得すること、などです。

真理が人を解放します。真理を知らない人は、罪や欲に心が縛られます。心が不自由になるのです。これが現代人の生きづらさの正体です。私たちは、自分の欲を実現させても心は満たされません。誰かのために生きる時、満たされます。それを愛といいます。聖ホセマリアは、「神の子の自由」と表現しました。罪の子の自由は、罪に縛られるだけです。悪と戦う善意が必要です。一所懸命、一心不乱に取り組める人を神は応援します。 ■2025/06/04 (文責：小寺神父)

聖霊降臨－生きづらさの正体－

結論から言えば、「見える世界」に縛られて、「見えない世界」を無視しているからです。人間は、「見える身体」と「見えない靈魂」から成り立ち、見える体を手段として、見えない靈魂を成長させ、神と一致することを目的として生まれてきたのです。ところが、「見える世界」で自分の夢を叶え、欲望を満たすことで幸せになろうとして、「見えない靈魂」が自分の中で隅に追いやられ、瀕死の状態になっているからです。何かがおかしいと、多くの人が気付き始めました。「私たちは見せかけだけの薄っぺらな時代に生き、人生の深い意味に関心など欠片もない市場経済に組み込まれて、訳も分からず次から次へと狂ったように駆け回り、果てしない消費に加担しつつ、モノの奴隷に成り下がってしまった」(回勅『主は私たちを愛された』n.2 フランシスコ教皇 2024 年) のです。

戦後は、効率(楽して儲ける)、成果主義(相手の幸せより数字。偽造、偽装、改ざん等)、組織主義(真実より保身、既得権益優先)を目指してきました。評判、評価、噂、世間体、人からどう思われているかが気になります。さらには虚栄心、本音を隠して創り上げた理想の自分、親しくなりすぎると関係が重く感じる、でも無視されると怖いというジレンマ、そうやって見える世界に取り込まれて身動きできなくなり、世間に縛られてしまうのです。生きる軸がない、芯となる信念がないのです。芯が無いコマは回りません。ぶれるし、すぐ倒れます。

まず、心の注意を外から内へ向けましょう。それが祈りの本質です。神と向き合うのです。そして、自分自身とも向き合うのです(個人主義の信仰は自分の欲が中心ですから、真の意味で祈りになりません)。心の奥に良心があります。神の声と出会う神の領域です。外ばかり見て生きている人は、良心が鈍って、「好き、嫌い」とか「損か得」とか「したい、したくない」という感情でしか判断しなくなります。ところが、感情は、外の世界の反応が気になり、相手の一言や態度に強く反応します。嬉しい事もありますが、否定的な感情が圧倒的に多くなります。人は自分の思い通りにならないからです。否定的な感情で処理できず、様々な手口で誤魔化しにかかりますが、何をしてもストレスが残ります。否定感情の本質は自分自身の心の在り方だからです。

生きる軸を外ではなく内に創ることが第一です。何を大切にするのか？神を第一にするのが正解です。神は良心の奥で語り、私たちを導く名コーチです。嫌な自分を誤魔化さず、受け入れましょう。真実の中、現実の中にだけ神はいます。理想の中には偽りの自分しかいません。■2025/06/03(文責：小寺神父)